



2022年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年7月26日
上場取引所 東

上場会社名 四国化成工業株式会社
 コード番号 4099 URL <https://www.shikoku.co.jp/>
 代表者(役職名) 代表取締役社長 兼 C. E. O. (氏名) 田中 直人
 問合せ先責任者(役職名) 執行役員 企画事業推進本部 企画財務統括 (氏名) 安藤 慶明 (TEL) 0877-22-4111
 四半期報告書提出予定日 2022年8月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年12月期第1四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年12月期第1四半期	15,796	22.7	1,775	0.3	2,561	29.6	1,578	16.8
2022年3月期第1四半期	12,869	11.0	1,770	40.3	1,975	37.1	1,351	42.8

(注) 包括利益 2022年12月期第1四半期 1,219百万円(21.9%) 2022年3月期第1四半期 1,000百万円(△46.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年12月期第1四半期	29.33	—
2022年3月期第1四半期	24.40	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年12月期第1四半期	113,820	81,477	70.9
2022年3月期	113,805	80,908	70.3

(参考) 自己資本 2022年12月期第1四半期 80,665百万円 2022年3月期 80,049百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	12.00	—	12.00	24.00
2022年12月期	—	—	—	—	—
2022年12月期(予想)	—	13.00	—	13.00	26.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年12月期の連結業績予想(2022年4月1日～2022年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	46,000	—	5,800	—	6,100	—	3,700	—	68.76

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2. 当社は、第103期より決算期(事業年度の末日)を毎年3月31日から毎年12月31日に変更する予定です。決算期変更の経過期間となる第103期は、2022年4月1日から2022年12月31日までの9か月決算となる予定ですので、上記、2022年12月31日までの連結業績予想には9か月の予想数値を記載しており、対前期増減率の記載を省略しております。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2022年12月期 1 Q	54,018,563株	2022年3月期	54,018,563株
② 期末自己株式数	2022年12月期 1 Q	205,938株	2022年3月期	205,788株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2022年12月期 1 Q	53,812,706株	2022年3月期 1 Q	55,403,410株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信 (添付資料) 3 ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

	頁
1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、経済活動の制限緩和、正常化に伴い、個人消費が持ち直しの動きを見せる等、緩やかな回復基調で推移しております。海外経済は、欧米を中心に持ち直しが続いておりますが、半導体をはじめとする供給制約の長期化、ロシアのウクライナ侵攻の長期化に伴うエネルギー・資源高の慢性化、世界的な物流網の混乱や海上運賃の高騰等の影響がグローバルに深刻化しており、これらの世界的な物価上昇を背景とした各国の金融引き締め、金利上昇が景気の下振れリスクとなっております。

このような状況下、当第1四半期連結累計期間（2022年4月1日～2022年6月30日）の当社グループの売上高は157億96百万円（前年同期比22.7%の増収）、営業利益は17億75百万円（前年同期比0.3%の増益）、経常利益は25億61百万円（前年同期比29.6%の増益）、親会社株主に帰属する四半期純利益は15億78百万円（前年同期比16.8%の増益）と、いずれも前年を上回りました。また、売上高及び経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益で過去最高を記録する等、世界経済のコロナ禍からの回復を背景に海外需要が業績を牽引し、高い水準となりました。

セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

①化学品事業

（無機化成品）

ラジアルタイヤ向け原料である不溶性硫黄は、半導体不足による自動車生産の落ち込みの中でも、交換用タイヤや産業車両用タイヤの底堅い需要を受け、販売は前年を大きく上回りました。レーヨン・セロハン向けの二硫化炭素や浴用剤・合成洗剤向けの無水芒硝は、為替レートの円安や資源価格高騰の影響を価格転嫁し、収益性の回復を図りました。

（有機化成品）

殺菌消毒剤塩素化イソシアヌル酸は、国内市場は、プール薬剤の販売回復等により、前年を上回りました。米国市場は、プール市場の活況が続いており、徳島工場ではフル生産を続けております。また需給ひっ迫を背景に資源価格や物流コストの高騰を価格転嫁しており、売上、利益ともに前年を大きく上回りました。

（ファインケミカル）

プリント配線板向けの水性防錆剤タフエースを中心とする電子化学材料、またエポキシ樹脂硬化剤（イミダゾール類）や樹脂改質剤（グリコールウリル誘導体等）、半導体プロセス材料を中心とする機能材料も、足元では中国、上海のロックダウンの影響はあるものの、コロナ禍からの回復を受けた半導体市場、エレクトロニクス市場の好況を背景に、堅調に推移しました。

この結果、化学品事業の売上高は113億27百万円（前年同期比35.0%の増収）、セグメント利益は19億37百万円（前年同期比10.5%の増益）と、いずれも前年を上回りました。

②建材事業

新設住宅着工戸数は、持家の着工が弱い動きを続けており、壁材、エクステリアともに需要は低調に推移しました。また、アルミ地金をはじめとする原材料価格の高騰を受け、価格改定を実施し、収益性の向上に努めましたが、末端価格の上昇がさらなる需要減に作用する等、厳しい事業環境が続きました。

この結果、建材事業の売上高は41億74百万円（前年同期比2.4%の増収）、セグメント利益は2億96百万円（前年同期比37.6%の減益）となりました。

〔参考情報〕

【海外売上高】

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)		当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	
	売上高 (百万円)	連結売上高に占める 海外売上高の割合 (%)	売上高 (百万円)	連結売上高に占める 海外売上高の割合 (%)
アジア	1,844	14.3	2,293	14.5
北米	2,047	15.9	4,199	26.6
その他の地域	476	3.7	679	4.3
合計	4,367	33.9	7,171	45.4
連結売上高	12,869		15,796	

(注) 売上高は、製品の実際の仕向地を基礎として分類しております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

財政状態は、総資産は、前連結会計年度末比14百万円増加し、1,138億20百万円となりました。主な増加は、機械装置及び運搬具23億19百万円、建物及び構築物5億76百万円、主な減少は、建設仮勘定17億26百万円、投資有価証券10億16百万円であります。

負債は、前連結会計年度末比5億53百万円減少し、323億43百万円となりました。主な増加は、設備関係電子記録債務12億54百万円、主な減少は、未払法人税等12億2百万円、支払手形及び買掛金7億97百万円であります。

純資産は、前連結会計年度末比5億68百万円増加し、814億77百万円となりました。主な増加は、利益剰余金9億31百万円、主な減少は、その他有価証券評価差額金4億79百万円であります。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末の70.3%から70.9%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想は、当初公表の計画(2022年4月28日発表)を変更しておりません。なお、主要な為替レートは、120円/米ドル、130円/ユーロと想定しております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	23,155	22,552
受取手形	1,271	995
電子記録債権	2,622	2,889
売掛金	13,044	13,321
有価証券	15,600	15,600
商品及び製品	7,373	7,218
仕掛品	41	55
原材料及び貯蔵品	3,689	3,870
その他	870	1,014
貸倒引当金	△1	△0
流動資産合計	67,668	67,516
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	5,238	5,815
機械装置及び運搬具（純額）	4,136	6,455
土地	8,523	8,524
建設仮勘定	3,776	2,049
その他（純額）	692	633
有形固定資産合計	22,366	23,479
無形固定資産	356	411
投資その他の資産		
投資有価証券	22,331	21,314
繰延税金資産	319	335
退職給付に係る資産	364	366
その他	403	401
貸倒引当金	△3	△3
投資その他の資産合計	23,414	22,413
固定資産合計	46,137	46,304
資産合計	113,805	113,820

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,993	7,196
電子記録債務	471	566
短期借入金	2,530	2,530
1年内返済予定の長期借入金	2,074	2,100
未払費用	1,449	1,290
未払法人税等	1,849	646
未払消費税等	116	118
設備関係支払手形	36	26
設備関係電子記録債務	49	1,304
その他	2,537	3,014
流動負債合計	19,109	18,792
固定負債		
長期借入金	11,017	11,068
繰延税金負債	295	39
再評価に係る繰延税金負債	1,008	1,008
役員退職慰労引当金	90	59
退職給付に係る負債	625	608
資産除去債務	380	380
株式給付引当金	50	56
その他	318	329
固定負債合計	13,788	13,550
負債合計	32,897	32,343
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,867	6,867
資本剰余金	5,740	5,740
利益剰余金	60,475	61,406
自己株式	△250	△250
株主資本合計	72,833	73,764
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,853	4,373
土地再評価差額金	2,298	2,298
為替換算調整勘定	32	194
退職給付に係る調整累計額	30	34
その他の包括利益累計額合計	7,215	6,901
非支配株主持分	859	811
純資産合計	80,908	81,477
負債純資産合計	113,805	113,820

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年6月30日)
売上高	12,869	15,796
売上原価	7,717	9,522
売上総利益	5,151	6,274
販売費及び一般管理費		
運送費及び保管費	1,353	2,187
広告宣伝費	121	192
給料	578	571
退職給付費用	41	38
役員退職慰労引当金繰入額	4	4
研究開発費	261	368
その他	1,020	1,135
販売費及び一般管理費合計	3,380	4,498
営業利益	1,770	1,775
営業外収益		
受取利息	15	18
受取配当金	164	172
為替差益	19	589
雑収入	16	14
営業外収益合計	214	794
営業外費用		
支払利息	7	7
雑損失	1	1
営業外費用合計	9	9
経常利益	1,975	2,561
特別利益		
補助金収入	28	—
特別利益合計	28	—
特別損失		
固定資産除却損	1	11
投資有価証券評価損	—	324
特別損失合計	1	336
税金等調整前四半期純利益	2,002	2,225
法人税等	654	690
四半期純利益	1,347	1,535
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△4	△43
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,351	1,578

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益	1,347	1,535
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△359	△481
繰延ヘッジ損益	10	—
為替換算調整勘定	△0	162
退職給付に係る調整額	3	3
その他の包括利益合計	△347	△316
四半期包括利益	1,000	1,219
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,000	1,264
非支配株主に係る四半期包括利益	0	△45

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	化学品事業	建材事業	計				
売上高							
無機化成品	2,928	—	2,928	—	2,928	—	2,928
有機化成品	3,220	—	3,220	—	3,220	—	3,220
ファインケミカル	2,243	—	2,243	—	2,243	—	2,243
壁材	—	348	348	—	348	—	348
エクステリア	—	3,729	3,729	—	3,729	—	3,729
その他	—	—	—	399	399	—	399
顧客との契約から生じる収益	8,391	4,077	12,469	399	12,869	—	12,869
外部顧客への売上高	8,391	4,077	12,469	399	12,869	—	12,869
セグメント間の内部売上高 又は振替高	0	0	0	79	80	△80	—
計	8,391	4,078	12,470	479	12,949	△80	12,869
セグメント利益	1,753	474	2,228	41	2,269	△499	1,770

- (注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報システム事業及びフード事業を含んでおります。
- 2 セグメント利益の調整額△499百万円には、セグメント間取引消去0百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△499百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
- 3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	化学品事業	建材事業	計				
売上高							
無機化成品	3,610	—	3,610	—	3,610	—	3,610
有機化成品	5,476	—	5,476	—	5,476	—	5,476
ファインケミカル	2,239	—	2,239	—	2,239	—	2,239
壁材	—	339	339	—	339	—	339
エクステリア	—	3,834	3,834	—	3,834	—	3,834
その他	—	—	—	294	294	—	294
顧客との契約から生じる収益	11,327	4,174	15,501	294	15,796	—	15,796
外部顧客への売上高	11,327	4,174	15,501	294	15,796	—	15,796
セグメント間の内部売上高 又は振替高	0	0	0	67	67	△67	—
計	11,327	4,174	15,502	362	15,864	△67	15,796
セグメント利益	1,937	296	2,233	27	2,261	△485	1,775

- (注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報システム事業及びフード事業を含んでおります。
- 2 セグメント利益の調整額△485百万円には、セグメント間取引消去△0百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△485百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
- 3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。